

令和元年度 第6学年 国語科 授業改善推進プラン

<p>本校児童の 実態と課題</p>	<p><実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見文では、自分の経験を入れて文章をまとめることができた。 ・必要な情報を取捨選択してまとめることが苦手である。 ・相手や目的に合わせて筋道を立てた文章の構成を工夫する力が弱い。 ・物語文や説明文の単元テストでは、正答率が80%以上と高い。 ・要旨をとらえて文章を読み取ることが苦手である。 ・問題に正対した答え方ができていない児童がいる。 ・語彙が少ない。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の主張を、筋道を立てて表現すること。 ・要旨をとらえて文章を読み取ること。 ・相手の意見を自分の考えと比べながら聞くこと。 	
<p style="text-align: center;">↓</p> <p>重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすること。 ・事実と感想、意見などとの関係を叙述をもとに押さえ、文章全体の構成をとらえて要旨を把握すること。 	
<p style="text-align: center;">↓</p> <p>一 授 業 改 善 策 一</p>	<p>授業改善の 手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初め・中・終わりにどんなことを書くかを最初に確認し、その型に沿って文章を組み立てさせる。 ・例を示し、考えやすくする。
	<p>実践する 単元</p>	<p>単元名： _____ 自然に学ぶ暮らし _____</p> <p>指導時間： _____ 6 _____ 時間 指導時期： _____ 1 _____ 月頃</p>
	<p>単元における 具体策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考えを伝えるために挙げられている事例を読み取る際に、着目するとよいキーワードをおさえたり、各事例が同じ文章構造で述べられていることをおさえたりすることで、事例をとらえやすくする。 ・文末表現や接続語、くり返し用いられている表現など、要旨をとらえる際に着目すると良いキーワードをおさえ、要旨をとらえやすくする。 ・初め・中・終わりにどんなことを書くかを最初に確認し、その型に沿って文章を組み立てさせる。 ・例を示し、考えやすくする。

令和元年度 第6学年 社会科 授業改善推進プラン

<p>本校児童の実態と課題</p>	<p><実態></p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史について、大まかな内容について理解できているが、出来事の与えた影響について深く考えたり、自分の考えをもったりすることが苦手な児童もいる。 教科書、資料集、インターネットなどを使い、意欲的に調べようとする児童が多いが、語彙が少ないために、内容の理解を深められない児童も見られる。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 学習課題を自分で見つけ、自ら調べ、まとめようとする力。 	
<p style="text-align: center;">↓</p> <p>重点的に育成すべき【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 内容の理解を深めるために、より詳しく調べていこうとする態度。 理解した内容について、自分の考えをもち、それを説明する力。 	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">【授業改善策】</p>	<p style="text-align: center;">↓</p> <p>授業改善の手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動を取り入れ、理解した内容を一人一人が表現する場を設定する。
	<p>実践する単元</p>	<p>単元名： <u>戦争と人々の暮らし</u></p> <p>指導時間： <u>7</u> 時間 指導時期： <u>11</u> 月頃</p>
	<p>単元における具体策</p>	<ul style="list-style-type: none"> より深く内容を理解できるようにするため、調べる時間をしっかりと設定する。 小グループでの話し合い活動を設定し、一人一人が、自分の調べた内容について表現できるようにする。 友達の話聞くことを通して、より理解を深められるようにする。

令和元年度 第6学年 算数科 授業改善推進プラン

<p>本校児童の実態と課題</p>	<p><実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自力解決の場では課題解決に向けて、既習事項を想起したり友達からの解決のヒントを利用したりして、進んで取り組もうとする児童が多い。一方、学びに向き合う力の点で自力解決への取組に厳しい状況もあり児童間の幅が大きい実態がある。 ・文章内容から答えを求めるための演算学習が苦手な児童が多い。また、言語理解、文章理解に課題が見受けられる。 ・全体での課題解決の場では積極的に参加していこうとする児童と、自分の考えに自信が持てないという理由で意欲的な態度を示さない児童も見受けられる。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図や式を使って考えを伝え合い、既習の内容と結び付け統合的に考えること。 ・割合の問題など自分の考えを全体で伝え合うこと。 ・ノートに書いたことを振り返り、自分で問題解決ができるために、何を聞いている問題か線で確かめながら、根拠を明らかにして説明すること。 						
<p>重点的に育成すべき【資質・能力】</p> <p>↓</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力。 ・基礎的・基本的な数量や図形の性質や計算の仕方を見だし、既習の内容と結び付け統合的に考えたり、そのことを基に発展的に考えたりする力。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり、目的に応じて柔軟に表したりする力。 						
<p>一 授 業 改 善 策</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="220 1196 432 1518"> <p>↓</p> <p>授業改善の手立て</p> </td> <td data-bbox="432 1196 1453 1518"> <ul style="list-style-type: none"> ・速さを比べるためには、既習の公倍数の考えを用いたり、距離か時間のどちらかをそろえたりして考えていくのではないかと気付いた児童の発言を全体で共有することで、速さを比べるにはどうしたらよいか見通しを持って考察できるようにする。速さ、時間、距離を割合の構造図をそのまま活かせることで理解を確実にする。 ・比較・検討する場面では、児童の考えた式や答え、数値の表す意味について児童自身が問い返し、互いの考えの根拠を明らかにしながら共通点や相違点に目を向けて考えられるようにする。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="220 1518 432 1697"> <p>実践する単元</p> </td> <td data-bbox="432 1518 1453 1697"> <p>単元名： _____ 速さ _____</p> <p>指導時間： <u> 11 </u> 時間 指導時期： <u> 10 </u> 月頃</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="220 1697 432 2036"> <p>単元における具体策</p> </td> <td data-bbox="432 1697 1453 2036"> <ul style="list-style-type: none"> ・速さを比べるためには、既習の公倍数の考えを用いたり、距離か時間のどちらかでそろえたりし、考えていく中で気付いた児童の発言を全体で共有し、速さを比べるにはどうしたらよいかの見通しを持って考察できるようにする。 ・解決の糸口が見つからない児童には、既習である5年生の混み具合の学習を想起できるように支援し、1あたりの量に目を向けることができるようにする。 ・比較・検討する場面では、児童の考えた式や答え、数値の表す意味について児童自身が問い返し、互いの考えの根拠を明らかにしながら共通点や相違点に目を向けて考えられるようにする。 </td> </tr> </table>	<p>↓</p> <p>授業改善の手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・速さを比べるためには、既習の公倍数の考えを用いたり、距離か時間のどちらかをそろえたりして考えていくのではないかと気付いた児童の発言を全体で共有することで、速さを比べるにはどうしたらよいか見通しを持って考察できるようにする。速さ、時間、距離を割合の構造図をそのまま活かせることで理解を確実にする。 ・比較・検討する場面では、児童の考えた式や答え、数値の表す意味について児童自身が問い返し、互いの考えの根拠を明らかにしながら共通点や相違点に目を向けて考えられるようにする。 	<p>実践する単元</p>	<p>単元名： _____ 速さ _____</p> <p>指導時間： <u> 11 </u> 時間 指導時期： <u> 10 </u> 月頃</p>	<p>単元における具体策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・速さを比べるためには、既習の公倍数の考えを用いたり、距離か時間のどちらかでそろえたりし、考えていく中で気付いた児童の発言を全体で共有し、速さを比べるにはどうしたらよいかの見通しを持って考察できるようにする。 ・解決の糸口が見つからない児童には、既習である5年生の混み具合の学習を想起できるように支援し、1あたりの量に目を向けることができるようにする。 ・比較・検討する場面では、児童の考えた式や答え、数値の表す意味について児童自身が問い返し、互いの考えの根拠を明らかにしながら共通点や相違点に目を向けて考えられるようにする。
<p>↓</p> <p>授業改善の手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・速さを比べるためには、既習の公倍数の考えを用いたり、距離か時間のどちらかをそろえたりして考えていくのではないかと気付いた児童の発言を全体で共有することで、速さを比べるにはどうしたらよいか見通しを持って考察できるようにする。速さ、時間、距離を割合の構造図をそのまま活かせることで理解を確実にする。 ・比較・検討する場面では、児童の考えた式や答え、数値の表す意味について児童自身が問い返し、互いの考えの根拠を明らかにしながら共通点や相違点に目を向けて考えられるようにする。 						
<p>実践する単元</p>	<p>単元名： _____ 速さ _____</p> <p>指導時間： <u> 11 </u> 時間 指導時期： <u> 10 </u> 月頃</p>						
<p>単元における具体策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・速さを比べるためには、既習の公倍数の考えを用いたり、距離か時間のどちらかでそろえたりし、考えていく中で気付いた児童の発言を全体で共有し、速さを比べるにはどうしたらよいかの見通しを持って考察できるようにする。 ・解決の糸口が見つからない児童には、既習である5年生の混み具合の学習を想起できるように支援し、1あたりの量に目を向けることができるようにする。 ・比較・検討する場面では、児童の考えた式や答え、数値の表す意味について児童自身が問い返し、互いの考えの根拠を明らかにしながら共通点や相違点に目を向けて考えられるようにする。 						

令和元年度 第6学年 理科 授業改善推進プラン

<p>本校児童の 実態と課題</p>	<p><実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験をすることへの意欲が高い。 ・「実験が好き」である一方で、実験の目的が曖昧な児童も多くいるため、その後の考察につながらないことがある。 ・自然事象への興味関心については個人差がある。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的意識をもって、実験に取り組むこと。 ・生活体験に大きなばらつきがあるため、予想をたてる場面で、理由が考えられない。 ・結果から考察することを。 	
<p>↓</p> <p>重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予想や仮説を基に、解決の方法を発想するといった問題解決の力。 ・自然の事象を、観察、実験の過程から導き出した結論から意味付けたり、関係付けたりする力。 	
<p>【授 業 改 善 策】</p>	<p>↓</p> <p>授業改善の 手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予想とその理由を考える時間を多く設ける。また、体験的な活動を通して、予想をしやすくする。 ・予想・仮説を解決するための方法を話し合う時間をとるようにし、問題解決の力がつくようにする。 ・考察の仕方を例を提示するなどして伝え、考える時間を多くとるようにする。
	<p>実践する 単元</p>	<p>単元名： _____ てこのはたらき _____</p> <p>指導時間： <u> 11 </u> 時間 指導時期： <u> 11 </u> 月頃</p>
	<p>単元における 具体策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予想をたてる場面では、共通体験として身の回りにある「はさみ」「くぎ抜き」「缶のふた」などを実際に触る。 ・実験方法を話し合う時間をとるようにする。限定する条件などを考えたり、相談したりする時間もとるようにする。 ・考察がしやすいように、結果の書き方を工夫するようにする。(板書) また、書き方例を提示するようにする。 ・実験の目的を明確にして伝える。

令和元年度 第6学年 音楽科 授業改善推進プラン

<p>本校児童の 実態と課題</p>	<p><実態> (全般) ・音楽の授業に意欲的に取り組み、明るく素直な反応をする児童が多い。</p> <p>(歌唱) ・望ましい発声方法で歌うことができ、個人差はあるが概ね積極的な表現ができています。</p> <p>(器楽 主にリコーダー) ・課題に真面目に取り組む、一定の技能を習得できているが、タンギングができなかったり息づかいが不安定であったりする児童も多い。</p> <p><課題> ・音楽活動の幅(種類)を広げることにより、自分の得意な表現方法を見つけさせ、「音楽は楽しい」「自信がついた」と実感できるような授業を進めていく必要がある。</p>	
<p>重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器や楽曲に対する興味・関心・意欲 ・全体の中での自身の役割を意識して参加する態度 ・生涯にわたって音楽を楽しんでいこうとする心情 	
<p>【 授 業 改 善 策 】</p>	<p>授業改善の 手立て</p>	<p>福生市小学校音楽会での発表の機会を活用し、様々な種類の楽器や表現方法に触れることにより意欲をひきだし、積極的な表現につなげていく。</p>
	<p>実践する 単元</p>	<p>単元名：<u>いろいろな音のひびきを味わおう（音楽会に向けて）</u> 指導時間：<u>10</u>時間 指導時期：<u>11</u>月頃</p>
	<p>単元における 具体策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な種類の楽器を使用、体験させることによって、自分の得意な楽器あるいは興味をもてる楽器に出会わせる。 ・曲調・ジャンルについても幅をもたせ、音楽を楽しむ幅を広げる。 ・学年でひとつの楽曲をつくりあげていく体験を通して、自己有用感や達成感を感じさせる。 ・自身の技量に関わらず、音楽を楽しむことのできる経験をさせる。

令和元年度 第6学年 図工科 授業改善推進プラン

<p>本校児童の 実態と課題</p>	<p><実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図工室で活動することについては非常に意欲的であるが、目的を理解していない児童が目立つ。 ・新しい技術の習得やアイデアの発見には非常に興味を示す。 ・作業中は授業に関係ない話をする児童が多く、メリハリがついていない。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に作品づくりに取り組む姿勢に個人差が見られる。 ・共同制作のために、話し合いや相互の意見を出し合うこと。 	
<p>↓ 重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に表現したり、鑑賞したりする活動に取り組む態度を養う。 ・造形遊びをする活動を通して、材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い出すことができる。 ・活動に応じて材料や用具を活用することができる。 	
<p>【授 業 改 善 策】</p>	<p>↓ 授業改善の 手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図工ノートを活用して、作業工程やめあての明確化を来ない、技術的な力を身に付けさせる。 ・班ごとに話合わせ、他の児童との発想や構想を共有し、自分の作品に生かしていけるようにする。 ・新しいことに取り組ませ、主体的に考え、工夫や試行錯誤を経験しながら、活動に応じて材料や用具を活用し、作品を完成させる。
	<p>実践する 単元</p>	<p>単元名： _____ 木工制作 _____</p> <p>指導時間： _____ 10 _____ 時間 指導時期： _____ 9 _____ 月頃</p>
	<p>単元における 具体策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図工ノート…工程表を貼らせる。電動のこぎりや電動ドリルの使い方を解説する。 ・班ごとに話し合い…木材を使って、何がつくれるかを話し合い、目的をもたせて計画を作成する。 ・どのようにしたら立体物が完成できるかを考え、限られた材料を計画的につくって行く。イメージがわからない児童については、個別で対応する。 <p>(180×600×20mmの板、スリム木ねじ、プラスドライバー、電動のこぎり、電動ドリル)</p>

令和元年度 第6学年 家庭科 授業改善推進プラン

<p>本校児童の 実態と課題</p>	<p><実態></p> <ul style="list-style-type: none"> 調理実習など、実技の授業への関心が高い。 班で協力して調理実習を行うことができる。 裁縫で、友達同士で教え合うことができる。(5年時) 材料によっていためる時間に差が出ることをふまえて調理することに課題が見られた。 裁縫は丁寧に取り組む児童が多いが、作業速度や技能の差が大きい。(5年時) 学習したことを家庭で生かそうとする意識に個人差がある。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 手縫いの技能が定着しておらず、速度などに個人差がある。 家庭での実践につながっていないことが多い。 ミシンの準備の仕方が定着していない。(5年時) 手縫いで真っ直ぐ縫えない。縫い目も粗い。(5年時) 	
<p>重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解すること。 手縫いやミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解し、適切にできること。 	
<p>【 授 業 改 善 策 】</p>	<p>授業改善の 手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友達同士で教え合う場面を多く取るようにする。 印のつけ方を工夫するなど、縫う際にわかりやすくする。 ミシンボランティアを活用し、児童の基礎的な技能の定着を図る。
	<p>実践する 単元</p>	<p>単元名： <u>楽しくソーイング</u></p> <p>指導時間： <u>10</u> 時間 指導時期： <u>9</u> 月頃</p>
	<p>単元における 具体策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ミシン縫いが定着できるように、準備の仕方や安全面をきちんとおさえて指導していく。 作成の際には、友達同士で教えあうようにする。 縫う場所に印をつけてわかりやすくする。 授業の初めにその日に縫う箇所や注意点、手順を確認する。 ミシンボランティアを活用し、児童の基礎的な技能の定着を図る。

令和元年度 第6学年 体育科 授業改善推進プラン

<p>本校児童の 実態と課題</p>	<p><実態> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育の学習を楽しんでいる児童は多い。 ・ ルールを守り、友達と協力しながら運動することができる。 ・ 教師の提示したコツやポイント、その場での動きなどはしっかりと守り、習得しようと一生懸命に取り組むが、自ら上達の方法を考えたり、楽しく活動するための工夫をしたりすることは苦手。 ・ 友達とアドバイスをし <p><課題> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と協力しながら運動し、互いに高めあっていく力をつける。 </p> </p>	
<p style="text-align: center;">↓</p> <p>重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技能を高めるためのポイントが分かり、取り組む。 ・ 友達とポイントを伝え合う。 ・ 励ましたり、挑戦する気持ち。 	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">【授業改善策】</p>	<p style="text-align: center;">↓</p> <p>授業改善の 手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上達へのコツやポイントを具体的に提示し、それをもとにして児童が互いにアドバイスをしたり、練習の場を工夫したりしながら、活動できるようにする。
	<p>実践する 単元</p>	<p>単元名： <u>ハードル走</u></p> <p>指導時間： <u>6</u> 時間 指導時期： <u>10</u> 月頃</p>
	<p>単元における 具体策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小グループを作って、互いに関わりを深めながら活動できるようにする。 ・ 自分の上達だけでなく、友達の上達も喜びにしていけるよう、声掛けをしていく。 ・ 児童が課題を達成するために必要な場を、工夫してつくる。 ・ 学習の流れを明確にして、児童が自主的に活動していけるようにする。